

ケアポート板橋 特養3階

症 例 概 要 利用者氏名：S・F様（80代・女性・要介護度4）

病名：骨粗鬆症・パーキンソン症候群・レビー小体型認知症

経過：R1年4月上旬にケアポート板橋へ入所。H.29.8～老健へ入所。H.30年12月頃に転倒を繰り返す様になり、車いすでの生活を余儀なくされ、生活全般を全介助にて過ごされておりました。入所時に長女より、「少しでも良いから歩けるようになって欲しい」とご要望があり、理学療法士、看護師と多職種で連携を図り、ご本人の希望でもある歩行を目標に計画、実行を行い、支えがあれば歩行することができる様になるまで回復された症例。

内 容

入所時は筋緊張や車椅子上でも傾斜が見られ、座位が不安定なレベルでした。ご家族の入所時の意向は「以前の施設では転んでから歩かせてもらえなくなってしまい、足の力が弱くなってきている。歩く事を忘れてしまっているかも・・・」とお話されており、理学療法士、看護、介護、ケアマネと多職種連携し少しでも歩行できるようになることを目標としました。

4月に理学療法士より、手引きにて歩行が可能との評価があり、その日より歩行訓練を開始しました。3?程の短距離を歩行する事から始め、『歩く』という意識の回復リハビリを実施しました。徐々に15?程の距離も歩けるようになり、手すりを使用し、ご自分で歩行する事も可能になりました。

6月にはご家族同伴で補助の段差を使用し、ステップ乗車で受診へ出かける事もできるようになり、受診帰りにもレストランで外食するなど、大変喜ばれておりました。

しかし、8月の1か月間、体調を崩され首の後傾や体が傾斜してしまう事が続き、静養時間が多く、リハビリする機会を設ける事が出来ませんでした。9月頃より体調が回復され、首の後傾も改善し、歩行訓練を再開しました。現在では移動手段は歩行で行い、ご家族面会時には一緒に歩行されています。以前の施設では怯えているような発言や帰宅願望もあったとの事でしたが現在は職員や他の利用者さんとも笑顔でお話をされている事が多く見受けられております。

ご家族に歩行状態の報告と今後の意向をお伺いすると、「前の施設では状態が落ちるのは見守るしかないと言われ、正直先の事までは思い描けなかったが、少しでも元気になる可能性があるのであれば、その先を私も見てみたいと思いました。体力がつけば姉弟にも会いに行きたいし、大好きな鰻屋さんにも行きたいと思いました」と笑顔で話して下さいました。

利用者さんには輝きの一日を、ご家族には安心を超える感動を提供できたこの症例はキラキラ介護賞に値すると思い推薦させていただきます。